

控室

虚偽と欺瞞と行政

省堂の「新明快国語辞典」は「実社会」を「虚偽と欺瞞」とが充満し、毎日が試練の連続であると言える厳しい社会を指す」と定義している。抵抗感を感じる向きも、おありかも知れないが、日本を代表する様な辞書メーカー編者の、れっきとした見解でもある。そうした言わば社会実相の中にあつて、ことさら誠実で正直でなければならぬ行政の在り方は、時として厳しい折衝を強いられる。最近では某食品工業の企業誘致が好例だろう。散々翻弄され、大枚を投じた挙げ句、呆れるほどお粗末な形で破談になった。まさしく失政と言うほか無いが、同じ土俵での勝負でありながら、禁じ手や寝技まで繰り出す無手勝

流の相手に、行政はあくまでも「横綱相撲」しかない、「取り組み」にはより慎重さが要だ。我々議会としても、特に私はこの件では、これまで所管常任委員会の委員として市民の皆様にお詫びすべき立場であり、申し訳のない気持ちと、やるせない気持ちでいっぱいだが、ある方の言った、政治家の意識とは「知識・見識・教養・感受性・そして価値観と思想信念だ」との言葉を痛切に思い出す。こうしたしっかりした政治意識無くしては、社会常識としてのルールすら遵守しない相手には、まともに太刀打ち出来ない。天上界と魔界の間にあるとされるこの俗界の中で、虚偽と欺瞞に屈せず行政を執行してゆくためには、逆説の様だが「俗界の俗物であるに過ぎない政治家」としての高い意識が必要だろう、特に用地買収の様な「欲得」の絡む行政折衝に、誠意をもってすれば相手も誠意で答えてくれるだろう的な三蔵法師気取りの政治感覚では、現実としてこの娑婆の、金閣、銀閣にすら、いいようにあしらわれてしまう。

(阿部則比古記)

広報編集 特別委員会

◎委員長 ○副委員長
(写真上段右側より)

熊谷 一夫
大石 温基
佐藤 大成
平岡 裕子
田口 寿宜
八柳 良太郎
門脇 民夫
阿部 則比古
伊藤 邦彦



編集後記

6月定例会終了後の早い時期に、7月臨時議会が開催された。両議会とも、今後の仙北市を方向付ける議案や予算案を市が提出し、審議された。定例会では若者の定住促進のため、市の育英奨学資金の融資を受けた学生が卒業後、仙北市内に定住すれば返還が免除されるよう条例の一部が改正され、また、市内の子供のいる世帯が市内に住宅を建築する場合、補助金が支給される補正予算案が可決。そして、臨時議会では市役所の建設予定地購入の予算案が可決された。今後、秋田県は大幅な人口の減少が予想され、仙北市においても同様の傾向が予想される。人口減に歯止めをかけたいと、県内市町村においても様々な定住対策がとられている。他の市町村と横並び思考ではなく、特色のある魅力に満ちた、きめ細やかな施策を打ち出さなければ、定住促進に向けた若者の心を捉えることはできず定住は厳しいと思われる。また、庁舎建設は市の長期展望を見据えた建設である。多くの市民の方々が集い、利用する庁舎となるべく、市・議会は英知を結集して建設に当たらなければならない。

(門脇民夫記)